



**国際高等専門学校**

**教育情報 公表資料**

令和元年5月1日現在

## 目次

<b>1. 教育研究の目的・構成・取組み</b> .....	<b>1</b>
1.1 学校法人金沢工業大学建学綱領 .....	1
1.2 教育目的・教育目標 .....	3
1.3 高専の構成 .....	4
1.4 三つの方針について .....	5
<b>2. 学事運営組織</b> .....	<b>10</b>
2.1 学事運営組織と役割 .....	10
2.2 教育支援・学習支援組織と機能 .....	11
<b>3. 教員</b> .....	<b>14</b>
3.1 教員の構成 .....	14
3.2 専任教員 .....	14
<b>4. 志願者・在学者・卒業者の状況</b> .....	<b>16</b>
4.1 志願者・入学者の状況 .....	16
4.2 在学者の状況 .....	16
4.3 進路状況 .....	16
<b>5. 授業</b> .....	<b>17</b>
5.1 本校教育の特色 .....	17
5.2 主要科目の特長や目標等 .....	19
5.3 各学科で修得する知識・能力 .....	21
5.4 学習支援計画書（シラバス） .....	22
5.5 単位認定と成績評価 .....	23
5.6 進級要件及び卒業要件 .....	25
5.7 アンケート調査及び教育改善 .....	28
<b>6. キャンパス構成</b> .....	<b>29</b>
6.1 キャンパスの所在地と構成・概要・交通手段 .....	29
6.2 校舎の耐震化率 .....	30
6.3 健康・体育施設 .....	30
<b>7. 入学金・授業料・その他の費用</b> .....	<b>33</b>
7.1 入学金・授業料等 .....	33
7.2 寮・下宿 .....	34
<b>8. 課外活動と課外学習</b> .....	<b>35</b>
8.1 学生会 .....	35
8.2 学科・研究室・教育支援センターによる課外の学習プログラム .....	35
8.3 夢考房プロジェクト .....	35
8.4 地域連携への取り組み .....	36
<b>9. 外部評価の状況</b> .....	<b>37</b>
<b>10. 財務情報</b> .....	<b>38</b>

## 1. 教育研究の目的・構成・取組み

### 1.1 学校法人金沢工業大学建学綱領

#### (1) 本学園の使命

日本の学校教育法は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と述べています。

また、アメリカの故ケネディ大統領は、1963年6月10日アメリカン大学の卒業式において『平和の戦略』と題する演説を行いました。この演説はあの有名なリンカーン大統領の『ゲチスバーク演説』に比すべき歴史的名演説といわれています。彼はその中で「この地上にあるもので大学ほど美しいものはないであろう。大学は無知を憎む人々が知ることに努め、真理を知っている人々が、他の人々の眼を開かせようと努める場であるからである。」と、彼らしい格調の高い言葉を引用して大学の使命を語っています。

これら二つの表現において、学校教育法は学理的に、ケネディ大統領は高踏的に、それぞれ大学の使命を定義づけています。たしかに、大学は学術の中心であって、常に高度の教育実践と斬新な研究活動を行い、日本及び世界学術の進歩と国際文化の向上に寄与することを使命とし、高等専門学校は、産業日本の発展を担う優秀な技術者を育成することを使命としているのであります。

#### (2) 教育原理の焦点

さらに、一般的教育とは、哲学者フィヒテの唱えるように、人間自身を形成することであり、人間を彼自身たらしめることでもあります。また、教育学者ナトルプのいうように人格を陶冶することでもあります。陶冶とは個人の完全なる形成を意味します。

それゆえ、学園の使命を具体的に挙げれば、人間形成、学術探究及び職業教育の三つの項目を数えることができます。この三つの項目は、いずれも重要な意義を持っていますが、窮極においては、人間形成に重点を置いているのであります。要するに、学術探究、職業教育によっても人間形成は可能ではありますが、人間形成を除外して、学術探究も職業教育もありえないのであります。したがって、使命の本質は、最高の知能と深奥な教養のある指導的人間の育成の場であると断言してよいのであります。

このように、学園を人間形成の場として重視すれば、学生生活はただ単に教室、実験室及び図書館にのみあるのではなくて、その文化活動、体育奨励、寮生活の指導、厚生施設、衛生管理、生活相談及び就職斡旋などあらゆる部門、すなわち常住坐臥そのものが重要な意義を持つこととなります。

#### (3) 学園共同体の倫理

以上の観点に立てば、人間形成ということは、官学たると私学たるとを問わず、およそ共通の最大の使命であります。特に私学においては、教育の担当者は、ひとり教授のみならず、広く理事者及び職員をも含むべきことを理解せねばなりません。したがって、本学園においては理事、教職員及び学生の三位一体の学園共同体を築き上げることによって、真に人間形成の場となし、民主主義日本の期待する人間像の生まれ出る温床とすべきであります。

しかも、私学は官学に比較して、私立学校法によって一定の基準を守り、監督を受けねばならないとしても、複雑な法的規制や煩瑣な官僚統制を免れて、はるかに自由な立場にあります。戦前においては、私学に対する当局の監督統制は、今日よりは、はるかに厳格を極めていましたが、それにもかかわらず、私学は、

それぞれ独自の伝統と堅実な学風を育て上げたのであります。

いずれの私学においても、その経営の企画と財政の確立のために多大の苦慮を払いながら、なおかつ香り高き矜持を失わないのは、実にこの自由の立場が存在するからであります。それゆえにこそ、本学園においては、技術時代に先駆する革新的な産学協同方策を高く旗標として掲げて、経営管理の最高責任者である理事会は、教育研究の直接担当者である教職員及び研学当事者である学生の全面的な協調を得て、その抱負経綸を実現するため、私学の特長を遺憾なく発揮して縦横自在な活動を行い、高邁な学風を築かんとするものであります。

見られよ。古き校史に彩られた私学の中には、その創設者の人格と識見によって建立され、長き歳月と烈しい風雪に耐えて鍛え上げられ、独自の伝統と質実な学風を誇っているものが数多く存在しているのであります。例えば早稲田大学における大隈精神、慶応義塾大学における福沢精神、また、同志社大学における新島精神のごときであります。本学園においても、ここに述べる建学綱領を基盤として日本の学界に垂範する崇敬に値する風格を樹立せねばなりません。

#### (4) われらの行く栄光の道

戦後におけるわが日本の経済的発展は、敗戦というおなじ運命を辿り、ともに復興の道を進んだ西ドイツの奇蹟的發展を、はるかに凌駕する神秘的發展を遂げたのであります。この偉大な成果は日本人の知能と技術と勤勉の総合的所産であります。

いまや、本学園はこの偉大な民族的栄光をバックボーンとして、郷土石川県、北陸三県、中部圏及び日本海沿岸地区の地域開発のための学術的母体と技術的基地の主役を演ずるとともに、さらに世界市場に挑戦する産業日本の要求する最優秀な技術者と最上級の経営者を養成すべき重責を双肩に担っているのであります。

進んで将来は、現代アメリカの科学技術の聖地ともいふべきマサチューセッツ工科大学の運営方針に学んで、日本の宇宙開発より産業社会学に至るまで、最高水準を誇る第一流の学園たらしめんとする大志を実現して、民主主義日本の学界に偉大な栄光を捧げんとするものであります。われわれは、この国家的至上使命を遂行するために本学園のあらゆる機能を結集して、その共同的総力を挙げて精進する決意を持たなければなりません。

昭和 40 年 2 月

#### (5) 三大建学旗標

金沢工業大学及び国際高等専門学校は、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、学園創設理事である泉屋利吉翁が定めた三大建学旗標の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

##### 【三大建学旗標】

<b>高邁な人間形成</b>	我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者・研究者を育成します。
<b>深遠な技術革新</b>	我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者・研究者を育成します。
<b>雄大な産学協同</b>	我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

## 1.2 教育目的・教育目標

### (1) 教育目的

本校および各学科における教育目的は次のとおりです。

#### ≪平成30年度以降入学生適用≫

##### 国際高等専門学校学則 「第1章 目的及び使命 第1条第1項、第2項」より

第1条 国際高等専門学校（以下「本校」という。）は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、理学・工学の幅広い学芸を教授し、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。

2 本校は、前項の目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを使命とする。

##### 国際高等専門学校学則 「第3章 組織及び定員 第6条、第6条の2」抜粋

第6条 本校に次の学科を置く。

##### 国際理工学科

2 学科は、教育上有益と認められるときには、適切なコースの学級を編成することができる。

3 前項に規定するコースの取り扱いについては、別に定める。

第6条の2 国際理工学科は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。

#### ≪平成29年度以前入学生適用≫

##### 国際高等専門学校学則 「第1章 目的及び使命 第1条第1項」より

第1条 国際高等専門学校（以下「本校」という。）は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するため教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを使命とする。

##### 国際高等専門学校学則 「第3章 組織及び定員 第6条、第6条の2」より

第6条 本校に次の学科を置く。

##### 電気電子工学科

##### 機械工学科

##### グローバル情報学科

第6条の2 電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

2 機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

3 グローバル情報学科は、情報技術に関する専門的能力と経営の知識を有し、グローバル社会においてイノベーション創出に貢献できる技術者の養成を目的とする。

## (2) 国際高専 2025 In Sight

平成30年4月、本校は学校名を金沢工業高等専門学校から国際高等専門学校（以下、国際高専）に変更し、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科を統合した「国際理工学科」を、新たに建設した白山麓キャンパスにてスタートさせました。

1・2年次は大自然に囲まれた白山麓キャンパスで、授業の多くを英語で学ぶ全寮制教育を行い、地方創生に寄与する様々なプロジェクト活動に取り組みます。3年次はニュージーランドの提携校に全員が1年間留学し、4・5年次は金沢キャンパスで隣接する金沢工業大学生との共創教育を実施します。

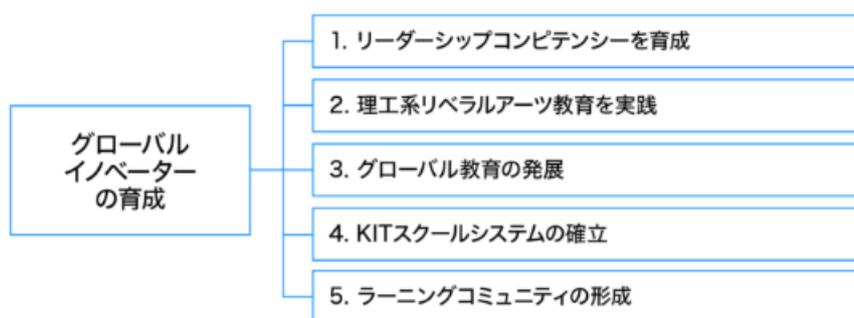
本校は、我が国の先駆となる理工学教育を着実に成功へと導き、KITスクールシステムを基盤とし更なる発展を遂げることを目的に「国際高専 2025 In Sight」を策定しました。

### 【教育目標】

「グローバルイノベーターの育成」

### 【Our mission】

“To educate leaders of global innovation”



国際高専 2025 In Sight は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/2025-in-sight/> で紹介しています。

## 1.3 高専の構成

### ■ 国際理工学科

（平成30年4月1日増設。これに伴い、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科の学生募集停止。）

### ■ 電気電子工学科

### ■ 機械工学科

### ■ グローバル情報学科

## (1) 入学定員及び収容定員

入学定員は、国際理工学科90名で、令和元年度の収容定員は表1-1のとおりです。

表1-1 令和元年度入学定員及び収容定員

学科名	入学定員	収容定員
国際理工学科(1～2年次)	90	180
電気電子工学科(3～5年次)	-	120
機械工学科(3～5年次)	-	120
グローバル情報学科(3～5年次)	-	120
合計	90	540

単位：人

## 1.4 三つの方針について

### (1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

#### ◀国際理工学科▶

国際理工学科では次のような行動ができる人を求めています。

国際高等専門学校（以下、本校）は、教育目標を「グローバルイノベーターの育成」とし、学生・理事・教職員に対しては学園共同体が共有する価値に基づく信条である図1-1「KIT IDEALS」を常に意識、尊重することを求め、自身及び学園共同体の向上発展を目指しています。また、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけるため、1・2年次は全寮制教育により人間力の陶冶を行い、3年次には1年間の海外留学を義務づけています。

本校は、上記理念及び教育方法に共感し、次のような特徴を持つ人を求めています。

- ① しっかりとした基礎学力を持ち、科学技術やデザイン（課題の発見・解決）、イノベーション（新しい価値の創造）に興味を持つ人
- ② グローバル社会での活躍に強い関心と探究心を持ち、英語でのコミュニケーション能力を高めようとする人
- ③ 主体的に社会や地域に貢献する意欲を持ち、且つ行動する人

本校では、一般入試・自己推薦入試以外に、多様な学生を募集するためにグローバル入試・帰国生入試を実施します。また、すべての入学試験において、主体性や協調性、高い向上心を持つ学生を選抜するために面接試験を行います。選考にあたっては、各入試区分で定められた試験および出願書類により多面的・総合的に評価します。

私たちは、学園共同体として共有すべき価値を“KIT IDEALS”として定め、これらに基づく信条を次の通りまとめました。  
これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することにより学園共同体の向上・発展を目指します。

<b>K</b>	Kindness of Heart [思いやりの心]	私たちは素直、感謝、謙虚の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。
<b>I</b>	Intellectual Curiosity [知的好奇心]	私たちは情熱、自信、信念を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。
<b>T</b>	Team Spirit [共同と共創の精神]	私たちは主体性、独創性、柔軟性を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。
<b>I</b>	Integrity [誠実]	私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。
<b>D</b>	Diligence [勤勉]	私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。
<b>E</b>	Energy [活力]	私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。
<b>A</b>	Autonomy [自律]	私たちは、自律することを大切にし、一人ひとりを信頼し、尊敬します。
<b>L</b>	Leadership [リーダーシップ]	私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割における自覚と責任を持ちます。
<b>S</b>	Self-Realization [自己実現]	私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に勝つことなくさらに高い目標に挑戦することに努めます。

図1-1 KIT IDEALS

### 《電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科》

電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科では次のような行動ができる人を求めています。

- ① エンジニアとして社会に役立ちたい人
- ② 基礎学力を持ち、科学技術やものづくりに興味がある人
- ③ 英語でのコミュニケーション能力を高めたい人
- ④ 何事にも積極的に挑戦する意欲のある人
- ⑤ 誠実で、他人を思いやることのできる人

## (2) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

### 《国際理工学科》

本校は、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけさせるために、下記を特色とするCDIOイニシアチブ（Conceive、Design、Implement、Operate）の理念をカリキュラムに織り込み、学生の主体的な体験を重視するカリキュラムを編成します。また、学修成果の評価については、成果物や試験以外に、活動プロセスや協働状況を評価するために学修ポートフォリオを活用する。

#### 1) 課題発見・解決力を高める

高専入学時から、Open-ended、即ち決まった答えのない問題について解決策を探るプロジェクトを早い段階でスタートさせる。継続的にデザインシンキングを実践する機会を設けて、課題を発見・定義する経験を繰り返し、幅広い研究成果や調査技術を駆使し、課題の解決へと結びつける力を養っていく。

#### 2) 科学的思考力、コミュニケーション能力を鍛える

他者と協働しながらアカデミックな探究の精神を養うこと、批判的・分析的思考の技術を磨くこと、ディスカッションやディベートを含む効果的なコミュニケーション能力を育成することに努める。

#### 3) よりよい社会づくりに積極的に参画する態度を養う

地域とのふれあいを意識し、地域社会や自然・環境を調査・研究対象としたプロジェクトを行い、地域貢献を通じて社会の一員としての自覚を醸成する。

#### 4) グローバルに活躍できる英語力を培う

特に数学、科学、工学における教育伝達的手段として1年次から英語を導入し、徐々に増やしていく。3年次以降はほとんどの授業を英語で行う。

#### 5) 異なる文化や、多様な価値観を持つ人々と協働する力を身につける

文学と芸術に触れる機会や、世界の人々と協働する体験を通じ、創造性と、自身や社会並びに世界に対する深い理解を育む。

### 《電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科》

電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科は、図1-2の通り学生は学んだことを統合的かつ反復して身につけられるよう構成されています。本校の教育とは、「創造実験・創造設計」を主柱としたものづくり教育で、一般教育と専門教育の連結を強化し「創造性」を醸成する牽引力となるものです。また、人材形成の教育であり、「コミュニケーション能力」や「自己実現力」を学年ごとに高める『人間力』を醸成する人間教育と技術者としての人間性を養成する教育でもあります。

具体的なカリキュラムの全体像は、図1-3の「国際高専のカリキュラム全体像」の通りです。創造実験・創造設計をものづくり教育の支柱として、これを支える一般教育と専門教育を「楔形」に組み合わせることで、本校の教育実践目標を達成するものです。

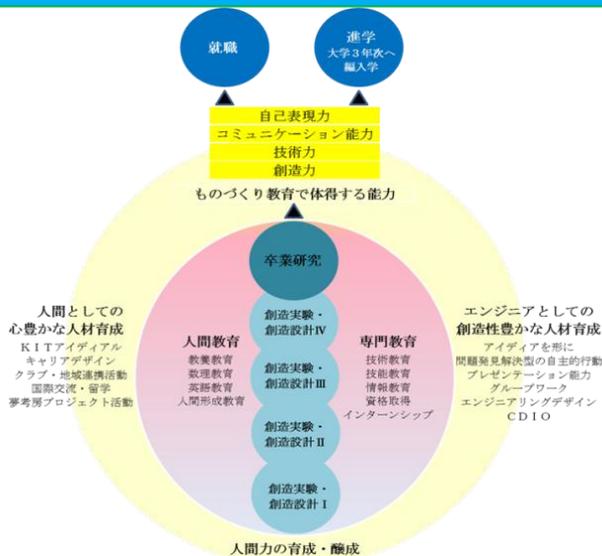


図1-2 国際高専が目指す「人間形成教育」と「創造的技術者育成教育」

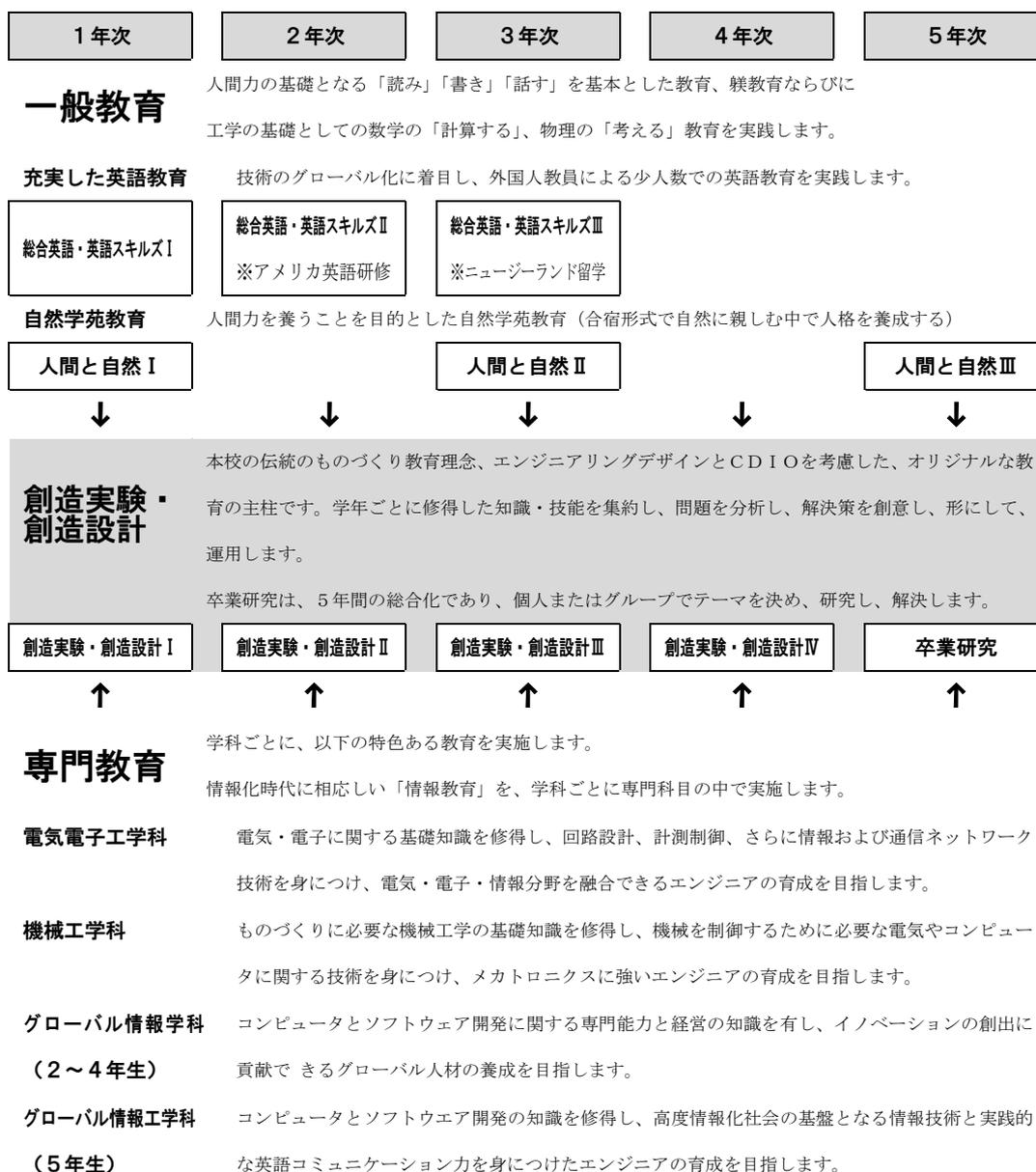


図1-3 国際高専のカリキュラム全体像

人間教育は、教養教育、数理教育、英語教育並びに人間形成教育で構成しており、学年とともに高度化される内容になっています。専門教育は、技術教育、技能教育、情報教育、資格取得及びインターンシップから構成されています。

一般教育では、人間力の基礎である「計算する」「読み」「書き」「話す」の4つを基本とする教育に視点を置いています。特に、エンジニアの基盤の顕在化を助長するため、工学の基礎である「数学」と「物理」の基礎力の充実を目指しています。「話す」についてはグローバル化時代を視野にいたした国語力の強化と、外国人教員による英語の少人数教育を実施し、「英語によるコミュニケーション能力の向上」に力を注いでいます。

「人間形成」を教育の根本理念とする本校は、「自然学苑教育」を人間教育の主要科目として必須化し、仲間と寝食を共にする合宿教育を行い「人間力の涵養」に努めています。

専門教育では、積み上げ式の創造実験・創造設計を教育の中心とした、教育体系を構築しています。ものづくりと専門教育を組み合わせることによって、学生の知識の深化に応じた問題発見・解決能力の発揚を図ります。各創造実験・創造設計では、エンジニアリングデザイン手法とデザインシンキング手法を独自の観点で取り込むと共に、CDIO教育理念：

①「発想する」②「設計する」③「実行する」④「運営する」の要素を修得できるような基準を再編成し、図1-4に示す実践的な技術者に必要な資質の養成を目指します。



図1-4 CDIOシラバスの構成

### (3) 卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

#### ◀国際理工学科▶

本校は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた実践的・創造的技術者を養成しています。グローバルイノベーターとは、課題を発見する科学的思考力を持ち、最新の工学知識や洞察力を身につけ、創造的な解決策を用いて新しい価値を生み出す人材です。さらに、さまざまな分野の専門家たちと協働し、文化や価値観の多様性を受け入れ、グローバル社会で活躍する力を持ったプロフェッショナルでもあります。

新しい価値の発見者“イノベーター”は、工学原理、工学実践を幅広く理解していなければなりません。つまり工学教育改革を目指す国際的組織「CDIOイニシアチブ」の「Conceive, Design, Implement, Operate」というそれぞれの段階を理解し実践する者です。具体的には、次の能力及び行動規範を身につけることを求めています。

#### I 社会に貢献するリーダーとしての人間力

1. 革新への挑戦：信念(高い志・強靱な意志)を持って行動し、失敗に臆することなく粘り強く挑戦し続け、自身やチームを成功へと導くことができる。
2. 社会的使命感：地域社会や自然環境に関心を持ち、社会的な課題の解決に使命感を持っている。
3. リーダーとしての高潔：グローバルな環境でリーダーシップを発揮しつつも、謙虚で他者への思いやりを持ち、尊敬される人格である。

#### II グローバルに活躍できるコミュニケーション能力

1. コラボレーション：チームで目標を達成するために、自分の役割と提供できる価値を認識し、積極的に貢献する。
2. 多様性とアイデンティティ：多様な文化・芸術・歴史観・宗教観・価値観を理解するための基礎的な教養を持ちつつ、その中で自らの考えを持っている。

3. 心を動かす力：考えを論理的にまとめたうえで、相手の立場や気持ちを考慮しながら効果的に伝えることができる。

### Ⅲ イノベーターに相応しい卓越した科学技術力

1. 価値創出：幅広い学問領域の探求とデザインシンキングの実践により、これまでにない価値を創出することができる。
2. 自然・社会・産業と結びつけた科学的思考：科学技術を自然・社会・産業の面から理解・分析し、自分の考えを述べるができる。
3. 常に学び続ける姿勢：確実に身に着けた基礎を土台として、常に新しい知識やスキルを獲得する姿勢を持っている。

これらの認識の下、本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得していることが卒業の要件です。獲得した知識を知恵（応用力）に転換できる、すなわち「自ら考え行動する技術者」として、学生自らが興味を持って計画的に学習し、考えて行動のできる学生を育成します。

#### 《電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科》

電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科は、図1-5のとおり、卒業時に身につけるべき学力や素質・能力として学生へ求めています。

理念・目標	規範	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力	
<b>建学の綱領</b> 人間形成 技術革新 産学協同  <b>教育目標</b> グローバル イノベーターの育成	<b>行動規範</b> KIT-IDEALS <b>K</b> : Kindness of Heart 思いやりの心 <b>I</b> : Intellectual Curiosity 知的好奇心 <b>T</b> : Team Spirit 共同と共創の精神 <b>I</b> : Integrity 誠実 <b>D</b> : Diligence 勤勉 <b>E</b> : Energy 活力 <b>A</b> : Autonomy 自律 <b>L</b> : Leadership リーダーシップ <b>S</b> : Self-Realization 自己実現  <b>学習規範</b> C D I O <b>C</b> : Conceive 発想する <b>D</b> : Design 設計する <b>I</b> : Implement 実行する <b>O</b> : Operate 運営する	<b>人間性</b>	①自分で考え、主体的に行動することができる。 ②技術者としての倫理や責任に基づいた意志決定ができる。 <b>資質A</b>
		<b>創造性</b>	③専門知識・技能を組み合わせ、ものづくりができる。 ④メンバーとしての自覚と責任を持ち、リーダーシップを発揮できる。 <b>資質B</b>
		<b>国際性</b>	⑤英語でコミュニケーションができる。 ⑥国際感覚や異文化を理解し受け入れることができる。 <b>資質C</b>
		<b>基礎力</b>	⑦自然科学（数理科目）および工学の基礎を理解できる。 ⑧論理的な考え方ができる。 <b>資質D</b>
		<b>専門力</b>	⑨専門知識と技能を用い工学的な問題を解決できる。 ⑩科目間の相互関連性を理解し、専門全体を俯瞰できる。 ⑪各学科で推奨する資格を取得できる。 <b>資質E</b>

図1-5 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力

これらの認識の下、本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得することが卒業の要件として定めています。

## 2. 学事運営組織

### 2.1 学事運営組織と役割

学事運営の組織構成と各委員会等の役割を示します。

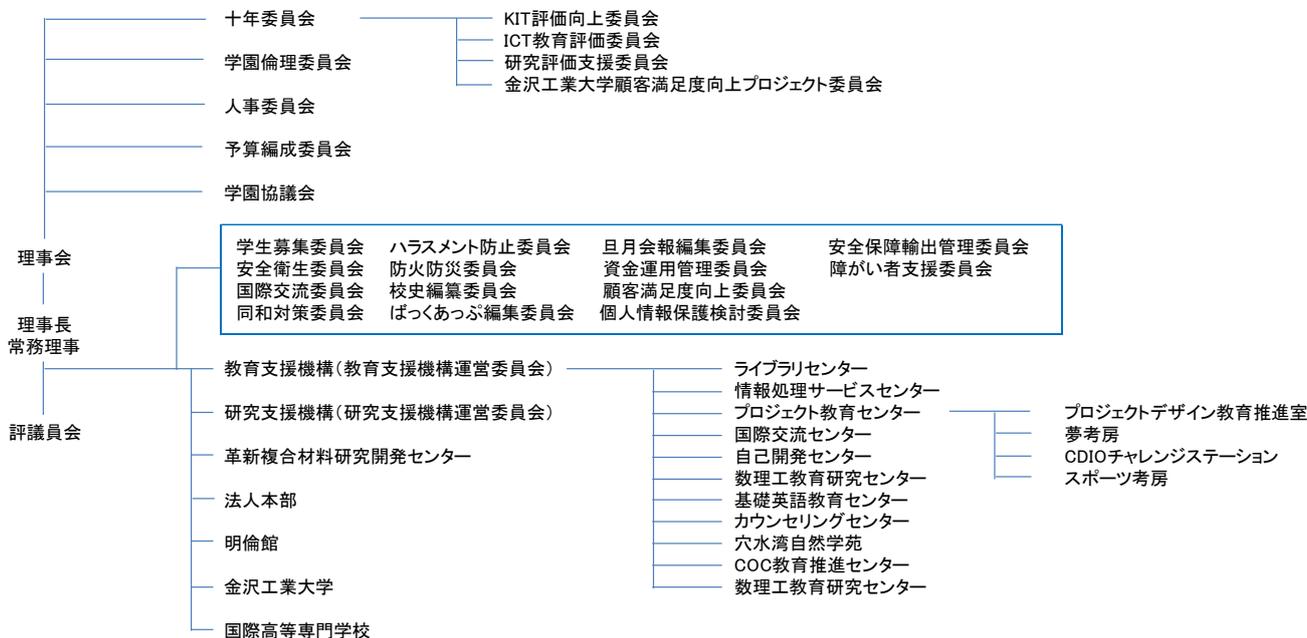


図 2 - 1 学園組織図



※①～⑩: 学務会議構成員が、各委員会等の議長を掌る。

図 2 - 2 高専組織図

## 1. 学務会議 (図2-2 ①)

校長、副校長、教務主事、学生主事(金沢、白山麓)、進路指導主事、研究プロジェクト主事、国際交流主事、国際理工学科長、電気電子工学科長、機械工学科長、グローバル情報学科長、一般教科主任、高専事務局長、白山麓高専事務室長により構成され、校長が議長となり、教育研究の質的向上に関する事項、学則その他規則に関する事項、教育課程編成に関する事項、学籍に関する事項、厚生補導に関する事項など、学事全般について審議します。

## 2. 教務委員会 (図2-2 ③)

教務主事が議長となり、教務運営の方針及び教育実施状況の把握に関する事項について審議します。

## 3. 厚生補導委員会 (図2-2 ④)

学生主事が議長となり、学生の厚生補導に関する事項について審議します。

## 4. 進路指導委員会 (図2-2 ⑤)

進路指導主事が議長となり、進路指導の方針及び進路指導状況の把握に関する事項について審議すると共に学生の進路に関する支援を行ないます。

## 2.2 教育支援・学習支援組織と機能

学生の学習や生活支援を行なう組織として、また、教育の充実に向けた支援組織として、各種の支援センターを設けています。

各センターの学生支援活動は次のとおりです。

## 《金沢キャンパス》

## ① ライブラリーセンター



ライブラリーセンターは、教室や実験室で得た知識をさらに深める場として開館した新しい概念の図書館で、「学習支援」「研究支援」「卒業生支援」「地域の情報センター」としての役割を担っています。利用時間は年間340日、平日は22時まで開館しており、就職や授業と連携した文書添削指導の機能を有するライティングセンター、専門基礎学力の増進プログラムを運営する学習支援デスク、マルチメディア技術の修得を目的としたマルチメディア考房を有しています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/kitle/> で紹介しています。

## ② 情報処理サービスセンター



情報処理サービスセンターは、コンピュータ、ネットワーク等のITによる教育研究の支援及びIT関連教育の推進を担っています。本校では、全学生にノートブック型パソコンを貸与するなど、IT教育の充実に努めています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/dpc/> で紹介しています。

## ③ 自己開発センター



自己開発センターは、資格取得による学生の総合的な能力向上の推進を担っており、各種の資格試験の情報提供をはじめ、資格取得のための講習会も多数開催しています。また、既に資格を取得した学生が、今から資格取得を目指す学生を教える、「学生と学生の学び合いの場」も運営しています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/shikaku/> で紹介しています。

## ④ プロジェクト教育センター 夢考房



プロジェクト教育センターは、ものづくり機能を有する夢考房と、健康管理や体力の向上の機能を有するスポーツ考房から成り、夢考房は年間 300 日、平日は 21 時まで、土日は 17 時まで開館しており、ものづくりのための安全や装置機器の取扱講習会を年間 345 回実施すると共に学生プロジェクトである夢考房プロジェクトを支援しています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>で紹介しています。

## ⑤ イノベーション&amp;デザインスタジオ



イノベーション&デザインスタジオは、「グローバル人材の育成」と「イノベーション力の育成」をキーワードに、授業・授業外の予習復習・課外教育プログラムの充実に向けた新しい形の教室環境です。平日は 21 時まで開館しており、アクティブラーニングや学生間のチームラーニングなどで活用できる学習環境です。

## ⑥ Challenge Lab



Challenge Lab は分野を超えて人と知識がつながり、未来の社会に必要とされる新しい技術や価値を創出する場として平成 29 年 7 月に金沢工業大学扇が丘キャンパスに開設しました。本校は今年度より、学科の枠を超えて卒業研究テーマに取り組む「ICT クラスタ研究室」が始めました。クラスタ研究室は、本校の機械工学科、電気電子工学科、グローバル情報学科を対象とした「ロボコン」と、金沢工業大学で学科を超えて活動している「初心者が楽しめるチェアスキーの設計と開発」、「スマートファクトリー：椅子再生工場を支える技術の提案と空間設計」、「石橋の科学的解明と石文化の継承方策の提案」で構成されています。



## ⑦ 学生ステーション



学生ステーションは、学年・学科の異なる学生同士が、共通の話題で対話し、自由な活動を通じて自己成長を行う場です。平日は、21 時までオープンしており、学生主体の交流イベント、講習会の実施を行なっています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/gstation/>で紹介しています。

## ⑧ d-studio



金沢キャンパス 2 階にあります。学生達がプログラミングのスキルだけでなく、モノづくりに直結する IT スキルを身につけさせるため、デジタルファブリケーションを体験出来る場となっています。部屋には、レーザーカッターや 3D プリンターを設置しています。

## ⑨ 自習室



自習には、個人で自習する場合と、複数人もしくはチームで自習する形態があります。本学には個人利用の自習室に加えて、チームでも使用できる自習室として、いつでも課外学習に取り組めるよう、235 席を有する 365 日 24 時間オープンの自習室があります。

## ⑩ 穴水湾自然学苑



穴水湾自然学苑は、扇が丘から北北東へおよそ 100 キロ、車で約 2 時間の能登半島 国定公園の景勝地、穴水町由比ヶ丘にあります。ここには鉄筋 4 階建、収容人数約 150 名の本館をはじめ、体育館、グラウンド、専用のヨットハーバーがあり、ハーバーには、艇庫、調査研究船、外洋クルーザー、ヨットなどが揃っています。電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科 3 年次の「人間と自然Ⅱ」を開講し、各年次で 2 泊 3 日の合宿形式による集中授業を行なっています。

## ⑪ 天池自然学苑



天池自然学苑は、本学園のメインキャンパスである金沢キャンパスからバスでおよそ 25 分の金沢市南東部の丘陵地に位置し、体育館、サッカー場、ラグビー場、野球場、ゴルフ練習場などがあり、学生の課外活動に使用しています。

## ⑫ 池の平セミナーハウス



池の平セミナーハウスは、本学園のメインキャンパスである扇が丘キャンパスから自動車約 3 時間の、新潟県の妙高高原にある収容人数 60 名の施設です。ここでは、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科 4 年次の「人間と自然Ⅲ」を開講し、2 泊 3 日の合宿形式による集中授業を行なっています。

## 《白山麓キャンパス》

## ① 学生寮



1・2 年次が共同生活を送る学生寮は、1 ユニットに 6 人が生活します。6 人それぞれがユニット内での役割を果たし、グローバル社会を生きる健やかで強靱な人間性を育みます。詳細は <https://www.ict-kanazawa.ac.jp/campuslife/accommodation/> で紹介しています。

## ② Maker Studio



Maker Studio は、学生や教職員の自主的な「ものづくり」を支援する設備群の総称あり、Workshop(工作機械室)、Workspace(ものづくりスペース)、Lecture room (レクチャールーム)、Project booth(プロジェクトブース)による制作環境です。学生達は社会実装に向けたプロトタイプをすぐ作成できるよう、レーザーカッターをはじめとした機械や道具が備わっています。

## ③ Library and Work Commons / Living Commons



1・2 年次学生の学習・生活の中心的空间となっています。金沢工業大学扇が丘キャンパスのライブラリーセンターのサテライト図書館としての機能はもちろんのこと、少人数教育、個人学習、グループ学習など様々な目的で使用しています。

### 3. 教員

#### 3.1 教員の構成

本校の専任教員の人数の推移を図3-1に示します。図中の数値は、専任教員の人数です。

なお、令和元年度の専任教員は65名、金沢工業大学に所属し本校の学生の授業を担当する兼任講師が12名、非常勤教員は9名となっています。

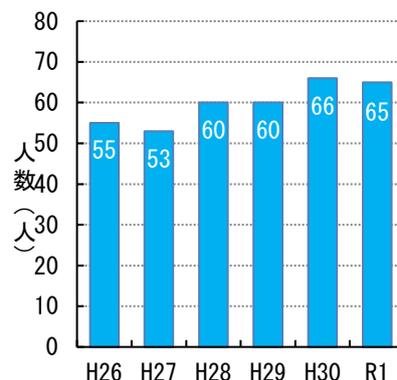


図3-1 専任教員の人数

#### 3.2 専任教員

##### (1) 所属別専任教員数

令和元年度の所属別の専任教員数を表3-1に示します。65名の専任教員が所属し、一人当たりの学生数は4.5名となっています。また、年齢構成は20歳代8名、30歳代16名、40歳代17名、50歳代13名、60歳代11名です。

表3-1 所属別教員数

所属	教授	准教授	講師	助教	計
校長・副校長	3	—	—	—	3
国際理工学科	3	1	4	1	9
電気電子工学科	4	2	1	—	7
機械工学科	4	1	2	—	7
グローバル情報学科	5	5	—	—	10
一般教科	10	3	9	7	29
常勤合計	29	12	16	8	65
非常勤合計(常勤に対する割合)					9(13.8%)

単位：人

##### (2) 外国人教員数

外国人教員数の推移を図3-2に示します。英語科目の教員に加え、平成20年度より専門科目を英語で教える外国人教員の採用を始めました。

令和元年度の専門科目を教える外国人教員配属人数は、国際理工学科が5名、電気電子工学科が2名、機械工学科が1名、グローバル情報学科が1名、一般科目が16名（ラーニングメンター4名を含む）となっています。

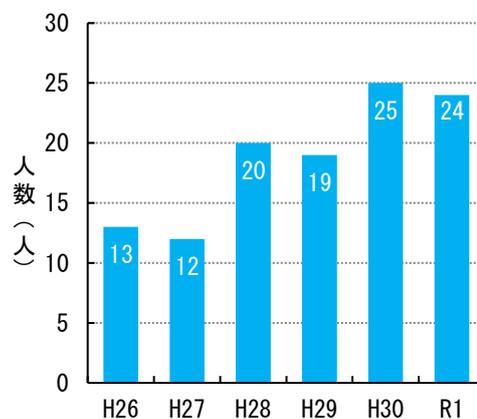


図3-2 外国人教員数

### (3) 教員紹介

本校教員のプロフィール等の詳細は、次のホームページで紹介しています。

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/staff/>

### (4) 教員の業績紹介

本校教員の保有学位を含む業績は、次のホームページで紹介しています。

- Research map (リサーチマップ) <http://researchmap.jp/>

サイト内 TOP ページの「研究者検索」を選択し、所属で「国際高等専門学校」と入力してください。

#### 【検索学科名】

一般教科、国際理工学科、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科

## 4. 志願者・在学者・卒業者の状況

## 4.1 志願者・入学者の状況

令和元年度の志願者状況、入学者状況を表4-1に示します。編入学生及び社会人学生の志願・受験はありませんでした。過去の入学者数は、平成28年度が112名、平成29年度が73名、平成30年度が12名でした。

表4-1 令和元年度入学試験結果

学 科	国際理工学科				
	入学定員※	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦試験	90	12(4)	11(4)	6(2)	6(2)
一般試験		18(3)	18(3)	9(1)	7(1)
帰国生入試		1	0	0	0
合 計		31(7)	29(7)	15(3)	13(3)

単位：人  
( ) は女子数

※令和2年度より、入学定員を45名に変更します。

## 4.2 在学者の状況

令和元年度の在学者数(令和元年5月1日現在)を表4-2に示します。留学生は、国際理工学科に1名在籍しています。編入学生及び社会人学生の在籍はありません。また、令和元年度の収容定員充足率は54.2%です。なお、平成30年度の退学者数は20名で、同年5月1日時点の在学生数293名で除した中退率は6.8%でした。また、留年者数は9名でした。

表4-2 在学者数

学科名	1年	2年	3年	4年	5年	合計
国際理工学科	13(3)	12(3)	-	-	-	25(6)
電気電子工学科	-	-	28	21	25	74
機械工学科	-	-	24(1)	29(1)	35(2)	88(4)
グローバル情報学科	-	-	25(6)	42(6)	39(7)	106(19)
合 計	13(3)	12(3)	77(7)	92(7)	99(9)	293(29)

単位：人  
( ) は女子数

## 4.3 進路状況

平成30年度の学科別進路状況を表4-3に示します。なお、卒業者には準学士(工学)の称号が与えられます。平成31年3月31日時での卒業生総数は、6,276人です。

卒業生の進路の詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/after-graduation/>で紹介しています。

表4-3 学科別進路状況(平成31年3月卒業生)

学 科	卒業生数 (人)	進学者数 (人)	就職希望者数 (人)	就職者数 (人)	就職率 (%)	自営・その他 (人)
電気電子工学科	31	12	19	19	100	-
機械工学科	26(1)	7	19(1)	19(1)	100	-
グローバル情報工学科	24(5)	6(1)	17(4)	17(4)	100	1
合 計	81(6)	25(1)	55(5)	55(5)	100	1

## 5. 授業

### 5.1 本校教育の特色

#### (1) グローバルイノベーターを目指す「5+4」のKIT/ICTスクールシステム

本校は、これまで培ってきたものづくり教育のノウハウを踏まえ、平成30年4月に新設した国際理工学科の学生に対し、社会が求める人材像を「グローバルイノベーター」と定義し、その人材育成プログラムの中核を成す能力開発を「考える力の育成」と定め、本校と金沢工業大学（以下、金沢工大）が共同で構築した教育「5+4」のKIT/ICTスクールシステムを提供します。

詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/education/system/>で紹介しています。

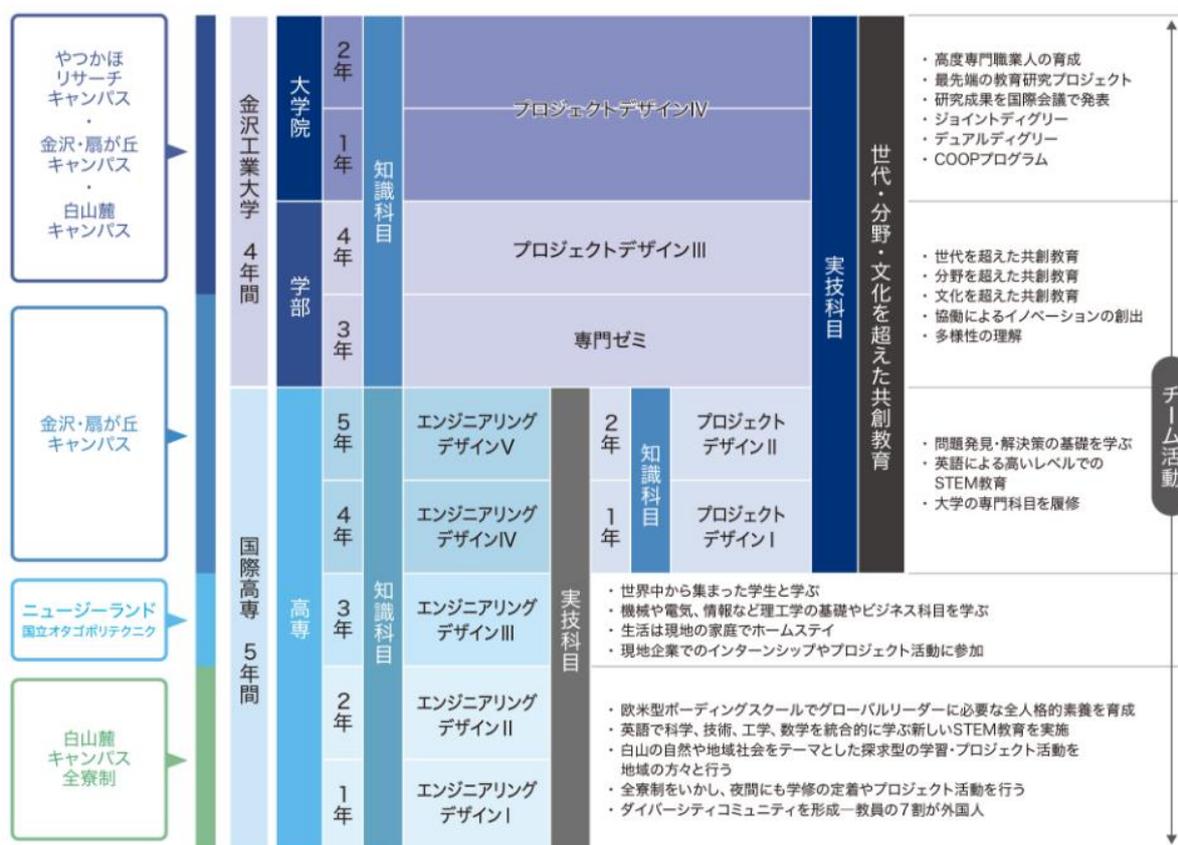


図5-1 KIT/ICTスクールシステム

#### (2) エンジニアリングデザイン教育

国際理工学科では、積み上げた知識をもとに課題解決をするだけでなく、様々な価値観の中で新たな価値の創出を目指すのが「エンジニアリングデザイン教育」を支柱としています。ユーザーの行動や気持ちを感じとり、そこから新しいサービスやモノを生み出す「デザインシンキング」を用いて、これまでの常識にとらわれない思考を育み、イノベーションの創出に挑みます。本校ではカリキュラムに、世界標準の工学教育CDIOを導入しています。CDIOは、Conceive（考える）、Design（設計する）、Implement（実行する）、Operate（運用する）の頭文字で、「工学の基盤知識となるサイエンス」と「実践・スキル」のバランスを重視し、質の高い工学教育を実現します。

詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/education/>で紹介しています。

### (3) English STEM 教育

国際理工学科は、研究開発の基礎となる科学、技術、工学、数学を英語で統合的に学ぶ STEM 教育を実施し、学生は理工学的思考力を身につけます。

1年次は主に外国人教員と日本人教員のチームティーチングで授業が行われます。1年次の前学期に開講される授業「ブリッジイングリッシュ」は、英語で行われる理工学系の授業での専門的な用語や言い回しを事前に学習させることにより、STEM 教育に対する学生達の理解を高めています。

4・5年次では、金沢工業大学と連携したより高いレベルでの「English STEM 教育」に取り組みます。

### (4) ものづくり教育

電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科の3学科は、「人間形成」「技術革新」「産学協同」を建学綱領とし、金沢工業大学と共有する教育研究環境の下、専門科目と一般科目をくさび形に編成したカリキュラムにより、実践的・創造的技術者の養成を目的に5年一貫教育を実施してきました。

また、平成19～21年度の文部科学省「ものづくり技術者育成支援事業」に機械工学科が応募した『16歳からの「将来の工場長、育成教育プログラムの開発と実施』が採択されたことを受け、地元企業・団体との産学連携により、ものづくり現場全体を俯瞰できる技術者育成教育に取り組んでいます。その一方で、産業のグローバル化に対応できる人材の育成に向けた教育を、本校の大きな特色として形づくってきました。

### (5) 英語教育と海外協力提携校との交流プログラム

英語教育に力を入れている本校は、現在24名の外国人教員が専任教員として教鞭をとっています。学生達は普段の学校生活で外国人教員と触れ合うほか、海外協力提携校との交流プログラムにより、英語を学ぶ喜びを得ることができます。

#### ① 2年次 夏休み海外英語研修 米国セントマイケルズ大学（希望者のみ）

2年次の夏期休暇を利用し、アメリカ・バーモント州のセントマイケルズ大学において約1ヶ月の『海外英語研修』を実施しています。平成6年度より実施されたこの研修は、英語圏での生活を通じた言語体験をさせるため、両校のアイデアを結集し作成されたもので、多い時は対象学生の半数近くが参加しました。現地の高校生や大学生が、授業やフィールドトリップにて、本校学生のパートナーとなり毎日行動を共にすることにより、英語や文化への興味が一層高まります。

平成30年度（第24回）は7月9日から8月6日にかけて実施され、電気電子工学科3名、機械工学科4名、グローバル情報学科9名、計16名が参加しました。

#### ② 3年次 1年間 ニュージーランド留学 オタゴ ポリテクニク

平成16年度よりニュージーランド国立オタゴ ポリテクニク（以下 OP）と共同開発した1年間の『OP 留学プログラム』を正規カリキュラムに導入しました。このプログラムは参加希望学生に対し、本校3年次の単位を認定できるよう開発したユニークなものです。ホームステイ先家族との生活は、日本で思い描いていた海外と、実際に生活し異文化に直にふれた際の違いを体験することになり、また、黙っていても意思が伝わらない環境で、コミュニケーション能力の重要性を認識することになります。OP 留学では、英語や工学以外にも、人間形成の面で多くのことを体験することにより学ぶことができます。

平成30年度は、機械工学科11名、グローバル情報学科8名、計19名が参加し、令和元年度は機械工

学科4名、グローバル情報学科9名の計13名を派遣しています。

なお、国際理工学科の学生は3年次にオタゴポリテクニクへ全員が留学します。

### ③ 4年次 1週間 シンガポール修学旅行 シンガポール ポリテクニク

本校は、海外への修学旅行がまだ一般的でなかった30数年前より、約1週間の『シンガポール修学旅行』を実施しています。スケジュールには、観光以外に、シンガポールポリテクニクの学生との交流会やスポーツ交歓会などが含まれています。学生は、アジアの中で英語を公用語として発展している国を見ることで、英語の重要性を再認識します。平成30年度（第37回）は11月3日から11月10日にかけて実施し、電気電子工学科25名、機械工学科34名、グローバル情報工学科39名、計98名が参加しました。

また、平成元年からは同校学生を受け入れるMILEプログラムを続けています。平成30年度は12月10日から12月18日に29回目となる同プログラムを実施し、学生12名と引率教員1名が学生・教職員宅にホームステイしながら日本の文化、習慣、産業そして言語などを学びました。

## (6) ラーニングエクスプレス

平成31年3月、「ラーニングエクスプレス2018」に電気電子工学科4年生1名、機械工学科4年生3名、グローバル情報学科4年生2名が参加しました。「ラーニングエクスプレス」とは、異なる国の学生たちが開発途上国や地域を訪問し、フィールドワークを通して地域発展、環境問題、持続可能な社会などの観点からの問題発見・問題解決策を提案し実施するという国際的ソーシャルイノベーションプロジェクトです。本校が参加して7度目となる今回は、日本（本校及び金沢工業大学）、シンガポール、インドネシアの学生たちがインドネシア・ジョグジャカルタ市近郊の村を訪問し、デザイン思考の手法を用いて提案を行いました。学生たちにとって生涯の糧となる良い経験になっています。

## 5.2 主要科目の特長や目標等

### (1) 人間と自然Ⅰ・Ⅱ

能登半島国定公園内の穴水湾自然学苑にて、電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報学科を対象に実施される合宿研修「人間と自然Ⅱ」は、本校教育の根本理念である「人間形成」を具現化する科目として位置づけられています。この科目は、大自然の中で学生と教員が寝食を共にし、海洋活動（カッター漕艇、遠漕、帆走）、グループ討議（ブレインストーミング、資料作成、発表）、クラスミーティング、講話（苑長講話、校長講話）などの活動プログラムや団体生活を通じ、学生同士或いは学生と教員とが積極的にコミュニケーションを図り互いの信頼関係を深め、科目の到達目標である「思いやる心を育み倫理観を養うこと」、「チームワークの大切さを知りリーダーシップを発揮できること」、「日本人としての自覚を深めること」の実践に努めています。

### (2) エンジニアリングデザインⅠ～Ⅴ

国際理工学科では、「エンジニアリングデザイン」を柱として位置づけます。エンジニアリングデザインⅠ～Ⅱは、デザインシンキングをベースに持続可能な社会をテーマに新たな価値創生を目指すプロジェクト型の活動にチームを組みます。ユーザーへの共感を高めながら課題を見定め、課題解決のためのアイデアをカタチにしていきます。エンジニアリングデザインⅢは、技術的、工学的知識を総合的に理解します。

自分たちが選んだ分野で、教員や学生たちと協議を重ねながら設計概要をまとめ、それに沿った製作活動、システム作成を行います。製作目的や製作過程の説明文書を作成するとともに、プロトタイプ、コンピューターモデル、コンピューターシステム制作を行います。さまざまなプレゼンテーション技術を用い、プロジェクトの成果を学生、教員または企業の方々に英語で発表を行います。エンジニアリングデザインⅣでは、地域社会や産業分野への理解を深めながら、異なった専門分野のエンジニアと基礎的な工学知識や技能を發揮した協働作業を行い、より幅広い視野をもって何が社会に必要なかを捉え解決策を提案します。エンジニアリングデザインⅤでは、実社会の問題を取り上げ、使命感をもって学生が主体的・自主的に、計画立案、調査、分析、実験、考察、発表を通じて、問題発見から解決にあたる過程と方法を実践しながら学び、その成果は作品や論文として発表します。

### (3) 創造実験Ⅰ～Ⅳ、創造設計Ⅰ～Ⅳ

電気電子工学科では「創造実験Ⅰ～Ⅳ、卒業研究」を、機械工学科およびグローバル情報学科では「創造設計Ⅰ～Ⅳ、卒業研究」を5年間一貫教育の柱として位置づけています。「創造実験」「創造設計」では、各分野における専門科目の知識がなぜ必要なのか、また、どのように活かすことができるのかを自ら考えることが重要です。ものづくりをテーマとして、学生自らの気づきを促し、学習意欲の増進に繋げるべく取り組みを進めています。そのため、各専門科目の配置も可能なかぎり創造実験、創造設計との関連を重視した配置とすることで、各学科の専門基礎知識の定着と創造性の醸成を目指しています。また、各学科の専門分野については、産業界のニーズを捉え、学生に求められる基礎的能力や知識が学べるように努めています。さらに5年次では、高専教育の集大成を図るべく卒業研究として、「基本的能力および能力の総合化」を実践しています。

### (4) キャリアデザイン

人間には、自分が持つ能力が生かされ、価値観や態度を素直に表現でき、自分が納得できる役割を引き受けさせてくれるような環境を求める欲求があります。節目々々でしっかり意思決定を行わなければ、単に状況に自分を合わせることになり心からの成功を得ることができません。本校では、自分を一番生かせる道へ進むため、特別活動の時間を利用してキャリアデザインを行なっています。「ものづくり教育」はまた“自分づくり教育”でもあり、キャリア（専門能力、人間力の醸成）の発達が促進されます。キャリアデザインにより自己理解を深め、自身で意思決定を行ない、自己実現に向けて主体的に行なう姿勢を身につけていきます。つまり、自立／自律型の人材を育成するプログラムです。

### (5) インターンシップ

4年次の夏期休業中の1～2週間に、インターンシップⅠ・Ⅱ（選択科目）が実施されます。本校では、開校以来、ほぼ全ての学生がこのインターンシップⅠ・Ⅱを受講しています。インターンシップⅠ・Ⅱは、単に企業での経験を積むだけではなく、企業内におけるコミュニケーションを肌で体験し、それまで学習した知識や技術を社会の場において活用することによって、学生自身がそれまでの学習を自己点検すると共に、残りの学生生活において、何を目標に学習するのかを「自ら考える」ことを大切にしており、新たな学習計画を立てる上で重要な位置づけとなっています。特に、5年次の「卒業研究」の準備教育として、インターンシップ終了後に行なわれる報告会は、学生の更なる自己啓発および進路開発の動機づけとなっています。

## (6) 卒業研究

卒業研究は、学生がそれまで身につけてきた力を発揮する集大成の科目となっています。卒業研究で学生が取り組むテーマは、実際のものづくりに力点をおいたものが多く、企業において実際に取り組むレベルのテーマも含まれます。学生は、これらのテーマに取り組むことにより、それまで学んだ知識・技術・経験を活かして、ものやシステムの製作・開発を行ないます。また、これら一連のプロセスを、最終的に研究論文としてまとめ、第三者にプレゼンテーションをします。

このように、卒業研究では、ものづくりやシステム開発に学生が主体的に取り組むことによって、企業が必要とする「実践的な力」を身につけることができると共に、進学においては高い意識をもって、さらに深く専門分野を「学ぶ姿勢」が身につきます。

## 5.3 各学科で修得する知識・能力

### (1) 国際理工学科

国際理工学科では、経済・産業のグローバル化、少子高齢化と労働人口の減少、自然災害、環境問題など、複雑かつ多様な課題により先行き不明な現代社会に伴い、課題解決に向けたイノベーションが期待され、変化に対応するのみならず、第四次産業革命における成長分野（AI、IoT・ロボティクス、ビッグデータ、セキュリティ分野など）を牽引することが持続可能な未来社会の創造へとつなげる、理工系人材の育成を目標とします。理工系リベラルアーツ教育と世界標準の工学教育 CDIO に基づくカリキュラムに基づき、グローバルイノベーターの育成を目指します。

### (2) 電気電子工学科

電気電子工学科では、電気電子関係科目と、「情報工学」「コンピュータ演習」などの情報関係科目をカリキュラムに組み入れ、電気と電子に必要な知識を修得します。「電気回路」「電気磁気学」において電気と磁気の関係や回路解法の知識を身につけます。4・5年次では、半導体の基礎、トランジスタやICの仕組みを理解し、「電子回路」にて電子回路設計に必要な知識を身につけていきます。情報工学に関する専門分野、電気工学と関連のある材料工学、制御工学、システム設計などの専門分野をさらに掘り下げて学習していくことにより、電気電子に関するより高度な技術に対応する能力を身につけます。「創造実験」では、「工学基礎」「電気・電子の基礎・応用」「応用・発展」と、段階を踏んで発想力を体得していき、学生が専門教育で学んだ知識を実験やものづくりの場において活用することにより、技術者としての能力を高めていきます。

また、現代産業には欠かせない通信ネットワークシステムや電気情報に関する分野も同時に学び、自ら問題発見・解決のできるエンジニアの育成を目指しています。

### (3) 機械工学科

機械工学科では、「創造設計Ⅰ」から「創造設計Ⅳ」まで、4年間のものづくりを通して機械工学の知識を身につけると同時に、メカトロニクス技術を構成する機械工学、電気工学、情報工学の3分野の技術を修得します。教室では2年次までに学修する「機械加工」、「機械製図」などの専門基礎から「材料力学」、「熱力学」などの専門応用までを学習します。製図室やコンピュータ演習室での「機械設計演習」では、設計計算から図面作成までのプロセスを修得します。実験室、演習室や夢考房で行なう「創造設計Ⅳ」ではメカトロニクス技術を総合活用し、一層の磨きをかける1年間の体験テーマとして、オリジナルロボットの設計製

作が用意されています。企業が実践しているものづくりの一連の流れを身につけながら、機械やシステムを総合的に把握して、設計から製品製作の現場までを有機的につなぐことのできるメカトロニクス技術に強いエンジニアの育成を目指しています。

#### (4) グローバル情報学科

グローバル情報学科では、情報技術に関する専門能力と経営の知識を有し、グローバル社会においてイノベーション創出に貢献できるエンジニアの育成を目指しています。情報教育では、ソフトウェア開発に必要なプログラミング技術及びネットワーク構築に関する技術の修得に重点を置いています。「創造設計Ⅰ～Ⅳ」は、学んだ知識を・技術を総合的に活用することで能力の定着を目指すものであり、授業はグループワークやプロジェクト型の学習が主となります。また、「情報ビジネス英語Ⅰ～Ⅲ」では、英語によるコミュニケーションの場を、日常生活から情報工学やビジネスの場へとステップアップさせ、国際社会で通用するプレゼンテーション技能やビジネス社会における英語の活用について学びます。つまり、社会において課題発見・解決ができる能力、グローバル社会で活躍できる能力を身につけるための実践的な教育を実施していきます。

### 5.4 学習支援計画書（シラバス）

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画は、教育課程表及び学習支援計画書（シラバス）に明記しています。授業科目は、一般科目と専門科目に分かれており、それぞれに必修科目と選択科目があります。

カリキュラムは、次のホームページで紹介しています。

- 国際理工学科

[https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/s/curriculum\\_s.pdf](https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/s/curriculum_s.pdf)

- 電気電子工学科

[https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/t/t\\_curriculum.pdf](https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/t/t_curriculum.pdf)

- 機械工学科

[https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/m/m\\_curriculum.pdf](https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/m/m_curriculum.pdf)

- グローバル情報学科

[https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/j/j\\_curriculum.pdf](https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/j/j_curriculum.pdf)

学習支援計画書（シラバス）には、①科目の基本情報、②科目概要、③教科書及び参考書情報、④授業方法、⑤評価基準（評価項目、評価方法）、⑥学生の到達目標または行動目標、⑦各回の授業内容（1年間の授業計画）と学習課題、⑧補足情報（受講上の注意、資格試験との関連、オフィスアワー）が明示されています。学習支援計画書は、科目担当者が初回の授業にて学生に配付し説明しています。

令和元年度の学習支援計画書（シラバス）については、次のホームページで紹介しています。

- 国際理工学科

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/s/>

- 電気電子工学科

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/t/>

- 機械工学科

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/m/>

- グローバル情報学科

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/j/>

## 5.5 単位認定と成績評価

学業成績の評価は、試験の成績、平素の学習状況及び出席状況を総合し、学習支援計画書（シラバス）の評価基準に従って行ないます。学業成績は、各学期末に科目ごとに、それぞれの科目の担当教員が、授業時間数の5分の4以上出席している者について、その科目を履修したものと認め評価します。そして学年末成績の評価が100点を満点とする評点により、60点以上の科目について、その科目の単位を修得したものと認定します。この評価は表5-1に示す区分により評定され、指導要録、及び成績証明書などに記載されます。単位追認試験を受けて修得した科目の評価は60点とします。なお、正当な理由なく定期試験を受けなかった場合、または懲戒処分のため試験を受けることができなかった場合には、当該の試験の成績を0点とします。

表5-1 総合評価点数と評定

評点	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	0
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不良)	F (出席不良)
GPA	4	3	2	1	0	0

個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を示すGPA(Grade Point Average)を活用しています。これにより、全体的な成績評価として各学期終了時点での成績状況を確認できます。また、GPAによる成績評価は、今後の修学指導における基礎資料となるばかりではなく、就職指導や大学への進学指導（大学への編入学推薦出願資格）における基礎資料としています。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

※小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとします

### 《平成30年度以降入学生適用》

各年次における開講科目数と開講単位数は、表5-2、5-3の以下のとおりです。

表5-2 1年（「教育課程表」平成30年度以降入学生適用）

		国際理工学科		
		開講科目数		開講単位数
		日本人	留学生	
必修	一般	21	18	29
	専門	6	6	8
選択	一般	3	3	3
	専門	0	0	0
合計		30	27	40

表5-3 2年（「教育課程表」平成30年度以降入学生適用）

		国際理工学科		
		開講科目数		開講単位数
		日本人	留学生	
必修	一般	20	18	29
	専門	6	6	8
選択	一般	4	4	7
	専門	0	0	0
合計		30	28	44

《平成 27 年度から平成 29 年度以降入学生適用》

各年次における開講科目数と開講単位数は、表 5 - 4、5 - 5、5 - 6のとおりです。

表 5 - 4 3 年（「教育課程表」平成 27 年度から平成 29 年度入学生適用）

		電気電子工学科		機械工学科		グローバル情報学科	
		開講科目数	開講単位数	開講科目数	開講単位数	開講科目数	開講単位数
必修	一般	9	21	9	21	9	21
	専門	6	12	7	12	7	12
選択	一般	0	0	0	0	0	0
	専門	0	0	0	0	0	0
合計		15	33	16	33	16	33

表 5 - 5 4 年（「教育課程表」平成 27 年度から平成 29 年度入学生適用）

		電気電子工学科		機械工学科		グローバル情報学科	
		開講科目数	開講単位数	開講科目数	開講単位数	開講科目数	開講単位数
必修	一般	3	4	3	4	3	4
	専門	10	21	10	21	10	22
選択	一般	4	10	4	10	4	10
	専門	6	10	6	9	6	10
合計		23	45	23	44	23	46

表 5 - 6 5 年（「教育課程表」平成 27 年度から平成 29 年度入学生適用）

		電気電子工学科		機械工学科		グローバル情報学科	
		開講科目数	開講単位数	開講科目	開講単位数	開講科目	開講単位数
必修	一般	0	0	0	0	0	0
	専門	10	23	8	21	11	25
選択	一般	5	10	5	10	5	10
	専門	4	8	9	16	4	7
合計		19	41	22	47	20	42

## 5.6 進級要件及び卒業要件

進級や卒業の基準は、国際高等専門学校学則第 12 条に規定し、必要な学力（取得単位数）と人間性（「特別活動」「人間と自然」の教育成果）を備えた学生について、規定に基づき進級や卒業を認定しています。進級や卒業の判定に当たっては、定量的な判定資料に加え、学科単位による事前評価、教務委員会、全教員による教員会議での予備判定を経て、校長・主事・学科長・主任・事務局長等からなる学務会議にて総合的に判定しています。

### 進級の要件

次の条件を満たしている者については、第 1 学年から第 4 学年までは、その学年の課程を修了したものと認定し、次学年に進級できます。

- (1) 学則に定める学年の修得最低単位数を修得していること。
- (2) 当該学年における欠席日数が出席すべき日数の 5 分の 1 未満であること。
- (3) 当該学年の特別活動の単位が認定されていること（平成 29 年度以前入学生適用）

### 同一学年再履修の制限

同一学年の再履修は、1 回を超えてはなりません。

### 卒業の要件

次の条件を満たしている者については、本校の課程を修了し卒業を認定します。卒業を認定された者には、準学士（工学）の称号が付与されます。

- (1) 学則に定める修得最低単位数を修得していること。
- (2) 卒業までに特別活動に 90 時間以上参加していること（平成 30 年度以降入学生適用）。
- (3) 当該学年の特別活動の単位が認定されていること（平成 29 年度以前入学生適用）
- (4) 当該学年における欠席日数が、出席すべき日数の 5 分の 1 未満であること。

### ≪平成 30 年度以降入学生適用≫

進級・卒業に必要な単位数を表 5 - 7 に示します。

表 5 - 7 進級及び卒業に必要な単位数

		単位数	学年別配当				
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
合計	一般科目修得最低単位数計	83	30	30	13	8	2
	専門科目修得最低単位数計	84	8	8	19	24	25
	修得最低単位数合計	167	38	38	32	32	27
修得最低単位数総計			167				

### 進級の特例

進級の要件の (1) のみを満たすことのできなかった者のうち、第 1 学年から第 3 学年までは次の (ア) 及び (イ)、第 4 学年にあっては (ア) ~ (ウ) のすべての要件を満たす者に限り、当該学年を修了したものと認定し、次学年に進級できます。

(ア) 表5 - 8に示す当該学年修了に必須となる授業科目の単位が認定されていること。

表5 - 8 当該学年修了に必須となる授業科目

学科	科目	
	1年	2年
国際理工学科	エンジニアリングデザインⅠA及びⅠB	エンジニアリングデザインⅡA及びⅡB

(イ) 修得単位数が、表5 - 9に示す進級に必須となる累積単位数を満たしていること。

表5 - 9 進級又は卒業に必須となる累積単位数

学科	学年	1年	2年	3年	4年	5年
	国際理工学科		26 (38)	72 (76)	100 (108)	133 (140)

注1) 下段( )は修得最低単位合計

(ウ) 第1学年から第3学年までの必修科目の単位をすべて取得していること。

≪平成27年度から平成29年度入学生適用≫

進級・卒業に必要な単位数を表5 - 10、5 - 11に示します。

表5 - 10 進級及び卒業に必要な単位数 (電気電子工学科)

		単位数	学年別配当				
			1年	2年	3年	4年	5年
合計	一般科目修得最低単位計	79	24	20	21	8	6
	専門科目修得最低単位計	88	9	15	12	25	27
	修得最低単位合計	167	33	35	33	33	33
特別活動		5	1	1	1	1	1
修得最低単位総計		172	34	36	34	34	34

表5 - 11 進級及び卒業に必要な単位数 (機械工学科・グローバル情報学科)

		単位数	学年別配当				
			1年	2年	3年	4年	5年
合計	一般科目修得最低単位計	79	24	20	21	8	6
	専門科目修得最低単位計	88	9	12	12	26	29
	修得最低単位合計	167	33	32	33	34	35
特別活動		5	1	1	1	1	1
修得最低単位総計		172	34	33	34	35	36

## 進級の特例

進級要件の(1)のみを満たすことのできなかつた者のうち、第1学年から第3学年までは次の(ア)～(ウ)、第4学年にあつては(ア)～(エ)のすべての要件を満たす者に限り、当該学年を修了したものと認定し、次学年に進級できます。

(ア) 表5-12に示す当該学年修了に必須となる授業科目の単位が認定されていること。

表5-12 当該学年修了に必須となる授業科目

学科	科目			
	1年	2年	3年	4年
電気電子工学科	創造実験Ⅰ	創造実験Ⅱ	創造実験Ⅲ	創造実験Ⅳ
機械工学科	創造設計Ⅰ	創造設計Ⅱ	創造設計Ⅲ	創造設計Ⅳ
グローバル情報学科	—	—	—	創造設計Ⅳ

(イ) 修得単位数が、表5-13に示す進級に必須となる累積単位数を満たしていること。

表5-13 進級又は卒業に必須となる累積単位数

学年 学科	1年	2年	3年	4年	5年
電気電子工学科	26 (33)	61 (68)	94 (101)	127 (134)	167 (167)
機械工学科	26 (33)	58 (65)	91 (98)	125 (132)	167 (167)
グローバル 情報学科	26 (33)	58 (65)	91 (98)	125 (132)	167 (167)

(ウ) 前年度までに、修得すべき授業科目の単位が認定されていること。

(エ) 第1学年から第3学年までの必修科目の単位がすべて認定されていること。

## 5.7 アンケート調査及び教育改善

本校は、教育改善を目的に「授業アンケート調査」及び学生、教職員、卒業生、企業を対象とする「総合アンケート調査」により、授業のみならず学生支援や課外活動及び学習環境など、幅広く情報を収集しています。分析及び分析結果報告は第三者である学外の専門家に依頼し、報告書を全教職員へ配付するとともに報告会を開催し、状況の周知及び改善点の共通認識を図っています。同調査結果報告書は、ホームページにて公開しています。浮かび上がった改善点をもとに ICT 教育評価委員会が改善案を作成し、学務会議で審議された後、改善の実施へと移されます。また、各教職員は年度末に1年間の活動について自己点検評価し、その報告書「教育改善への取組と今年度の目標及びその成果」を校長に提出しています。

ICT 教育評価委員会は、教育力向上を目的に、年3回全教職員を対象に研修会を開催しています。「FD 研修会」では、学習意欲の向上などをテーマに、専門家による基調講演の後、グループ討議及び発表を行ない組織的教育力の向上を図っています。

さらに3月には、その年度のFD活動の成果を発表する「教育成果発表会（公开发表）」を開催しています。なお、各教職員が授業において実践した活動内容については、「教育成果発表会」や「創造技術教育（教育研究報告書）」によって全教職員に公開され、個々の教職員の優れた教育実践例のノウハウを共有しています。

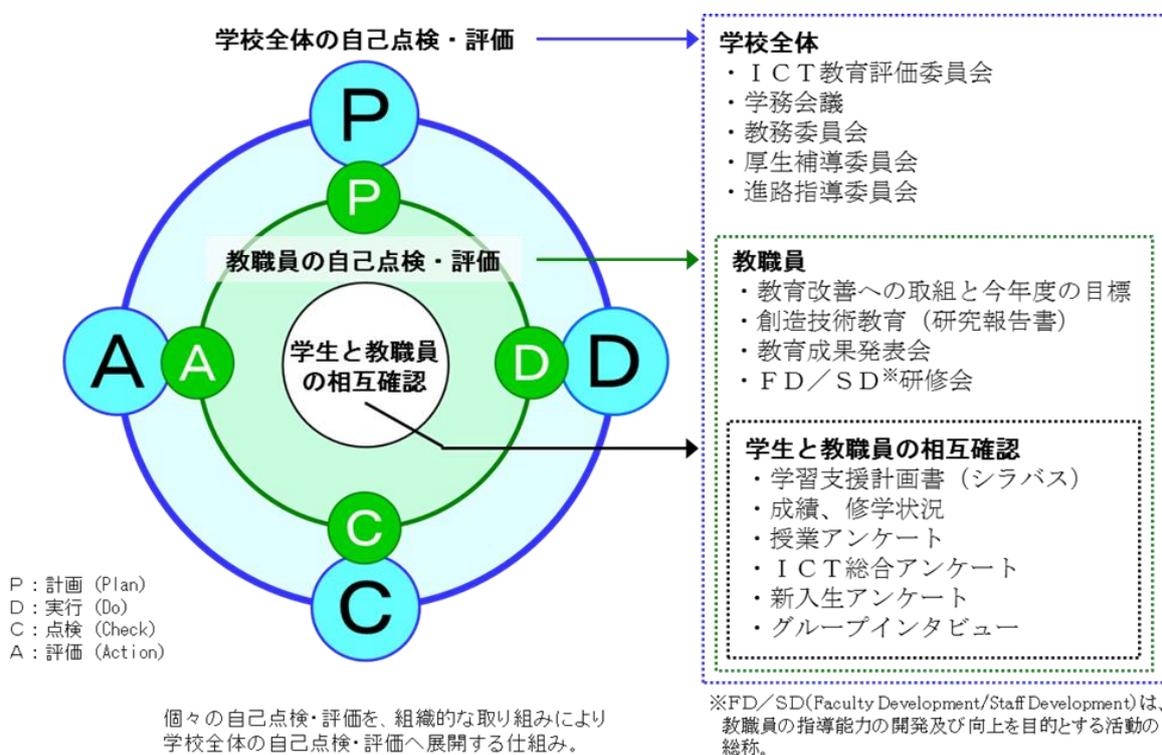


図 5 - 2 自己点検評価概念図

また、本校で開講している全ての授業科目で学生による授業アンケートを実施しています。代表的なアンケート項目とその結果は次のホームページで紹介しています。

■ 授業アンケート・総合アンケートの詳細

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/fdequete/>

## 6. キャンパス構成

## 6.1 キャンパスの所在地と構成・概要・交通手段

本校は、金沢キャンパス・白山麓キャンパスをメインキャンパスとし、他に次に示す3つのキャンパスを設けています。各々のキャンパスの所在地と校舎面積を表6-1に示します。



表6-1 キャンパスの所在地等

校地名	所在地	校地面積	校舎面積 (借用建物含む)
金沢キャンパス	石川県金沢市久安 2-270	166,606 <sup>※</sup> ㎡	136,487. <sup>61</sup> ㎡
国際高専校舎クラブハウス	石川県金沢市久安 2-270	11,602 ㎡	8,856 ㎡
白山麓キャンパス	石川県白山市瀬戸辰 3-1	67,270 ㎡	14,495. <sup>39</sup> ㎡
天池自然学苑	石川県金沢市天池 3 番地	205,687 ㎡	5,256. <sup>10</sup> ㎡
穴水湾自然学苑	石川県鳳珠郡穴水町由比ヶ丘	36,880 ㎡	5,484 ㎡
池の平セミナーハウス	新潟県妙高市池の平 2275-5	5,682 ㎡	2,866 ㎡

※金沢工業大学扇が丘キャンパス含む

## 6.2 校舎の耐震化率

本学園校舎の耐震化率を下記に示します。

**本学園校舎の耐震化率 96.9% (平成31年4月1日現在)**

※日本私立学校振興・共済事業「私立学校校舎等実態調査」に基づき算出しています。

## 6.3 健康・体育施設

### 《金沢キャンパス》

#### ① 扇が丘診療所



専任の医員が在籍する内科診療所を金沢キャンパスに隣接する金沢工業大学扇が丘キャンパスに設置しています。体調を崩したり、風邪をひいたり、おなかの調子が悪いときなど、学内で気軽に診断が受けられ、薬の提供も行なっています。

#### ② スポーツ考房



多彩なトレーニングマシンを完備しており、専門スタッフのアドバイスを受けながら無理なく健康増進、体力向上が可能な設備が整っています。平日は20時まで利用可能です。

#### ③ カウンセリングセンター



一般的に高専生は、思春期という人生で最も大きな心理的課題に直面する時期にいるという観点に加えて、対人関係の悩みや修学上の問題等、様々な場面で悩み、立ち止まることもあります。同時に、自分が何者で、どう生きていくのかを自分自身に問いかけ、大人としての心の成長を遂げる時期でもあります。このような背景の下、学生のメンタルヘルスに関する相談、アドバイスを目的に臨床心理士が常勤のカウンセラーとして対応します。

#### ④ 学生食堂



約800席を有すレストランのフロアには、天窓と壁面に全面ガラスを採用し、明るく大きな空間で食事を楽しむことができます。ボリュームのあるメニューから、ヘルシーなメニュー、そして単品メニューも充実しています。詳細は、<http://www.kit-group.jp/>で紹介しています。

## 《白山麓キャンパス》

### ① Training Gym



1・2年次が過ごす白山麓キャンパスの体育館2階に設置しています。学生達は日々の体力作りに励んでいます。

詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/campuslife/accommodation/>で紹介しています。

### ② ボルダリングウォール



高専校舎に隣接するKIT Innovation Hubの1階にあります。レベル別に色分けされており、指導員立会いのもと、学生達は自分のレベルに合わせて頂上まで昇っています。

### ③ Golden Eagle Cafeteria



KIT Innovation Hubの2階にあります。学生生活を充実させるために、食事のサポートも欠かせません。本校では、朝・昼・夕の3食に加え、夕食時に準備される夜食（軽食）を必要に応じて部屋に持ち帰ることができます。また、宗教やアレルギーなどによる食事制限については、個別対応も可能です。

詳細は <https://www.ict-kanazawa.ac.jp/campuslife/dining/>で紹介しています。

### ④ 保健室



KIT Innovation Hubの1階にあります。看護師は平日7:00～18:30、土曜8:30～13:00にそれぞれ在室しており、学生や教職員の健康面をサポートしています。

### ⑤ カウンセリングセンター高専分室



保健室に隣接しています。毎週水曜日の13:30～17:00にKITカウンセリングセンターよりカウンセラーが来ています。また、1年次全員と2年次の希望者を対象に「ポジティブサイコロジー」を実施し、学生達のこころの成長を手助けしています。

## ⑥ 体育施設

屋内施設	扇が丘キャンパス	第一体育館	体育館	1,163 m <sup>2</sup>	2,605 m <sup>2</sup>
			卓球場	431 m <sup>2</sup>	
			剣道場	768 m <sup>2</sup>	
			その他	243 m <sup>2</sup>	
	扇が丘キャンパス	第二体育館	体育館	1,582 m <sup>2</sup>	4,465 m <sup>2</sup>
			柔道場	596 m <sup>2</sup>	
			トレーニングルーム	542 m <sup>2</sup>	
			トレーニングコート	341 m <sup>2</sup>	
			その他	1,404 m <sup>2</sup>	
	白山麓キャンパス	体育館	体育館	793 m <sup>2</sup>	1,589 m <sup>2</sup>
トレーニングルーム			70 m <sup>2</sup>		
その他			726 m <sup>2</sup>		
天池自然学苑	体育館		1,969 m <sup>2</sup>		
穴水湾自然学苑	体育館		740 m <sup>2</sup>		
屋外施設	扇が丘キャンパス	グラウンド		11,548 m <sup>2</sup>	
		テニスコート (オムニコート)		7 面	
	白山麓キャンパス	スリーオンスリーコート		1 面	
		バドミントンコート		1 面	
	天池自然学苑	野球場		13,025 m <sup>2</sup>	
		グラウンド		15,906 m <sup>2</sup>	
		サブグラウンド		4,005 m <sup>2</sup>	
ゴルフ練習場			16,481 m <sup>2</sup>		

## 7. 入学金・授業料・その他の費用

### 7.1 入学金・授業料等

#### (1) 入学金

入学金は、200,000円です。

#### (2) 授業料等

#### 《国際理工学科》

国際理工学科は表7-1に示す通りです。

表7-1 授業料

	1年	2年	3年	4年	5年
前学期	1,500,000円	1,500,000円	125,000円	800,000円	800,000円
後学期	1,500,000円	1,500,000円	125,000円	800,000円	800,000円
計	<b>3,000,000<sup>※1</sup>円</b>	<b>3,000,000<sup>※1</sup>円</b>	<b>250,000<sup>※2</sup>円</b>	<b>1,600,000円</b>	<b>1,600,000円</b>

※1 1・2年次は全寮制です。内訳は以下の通りです。

- ①学費 [年額] 1,516,000円
- ②教材等一式 [年額] 308,000円 (教科書、補助教材、パソコン、トレーニングウェア等を含む)
- ③寮費 [年額] 1,176,000円 (食事300日分、部屋代、光熱費、掃除費、リネン代等含む)

※2 3年次は上記の他にニュージーランド国立オタゴポリテクニク留学に係る費用が(授業料等)が表7-2の通り、かかります。

表7-2 ニュージーランド国立オタゴポリテクニク留学に係る費用(授業料等)

	年額	備考欄
3年次 国立オタゴポリテクニク 授業料	1,700,000円	①授業料は、ニュージーランド政府の規則に従ってオタゴポリテクニクが2020年2月に決定する授業料とします。 ②オタゴポリテクニク授業料は、2020年3月に全額一括納入とします。
ホームステイ費用等	1,050,000円	①ホームステイ費用 ②課外活動費、疾病・傷害・損害賠償等の保険料 上記費用は、2020年3月に全額一括納入とします。
*留学に係る費用には渡航費用は含まれていませんので、別途必要になります		

4年次及び5年次の授業料に、寮費(食事)は含まれていません。

また、上記の納入金以外に、委託徴収会費(年額)が必要となります。

- ①育友会費(保護者会費) 20,400円
- ②学生会費 9,600円
- ③同窓会費 6,000円

### 《電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科》

電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科の授業料及び施設設備費は表7-3に月額を示します。

表7-3 授業料及び施設設備費の月額

	1年	2年	3年	4年	5年
授業料	31,000 円	31,000 円	48,000 円	87,000 円	87,000 円
施設設備費	12,500 円				
<b>計</b>	<b>43,500 円</b>	<b>43,500 円</b>	<b>60,500 円</b>	<b>99,500 円</b>	<b>99,500 円</b>

また、上記の納入金以外に、次の費用が必要となります。

- ① 委託会費（育友会、学生会費、同窓会入会積立金） 3,000 円／月
- ② 教科書・指定用品等 33,000～45,000 円  
※学科によって異なりますが、目安としての金額が表示してあります。なお、教科書は学年ごとに購入します。
- ③ その他の教育用品（入学時に購入するものです。）
  - (a) 女子学生制服 61,016 円
  - (b) 男子学生制服 64,714 円
  - (c) 体育着 11,416 円
  - (d) 体育館シューズ 4,104 円
  - (e) 実験服 5,482 円（電気電子工学科・機械工学科のみ）

## 7.2 寮・下宿

金沢キャンパス周辺には、民間経営による金沢工科大学園指定寮があります。1部屋夕食付きで1ヵ月 55,000 円位が標準です。指定寮には、管理人が在中し、寮生一人ひとりの生活態度に目を配っています。

クラス担任や学生係の教員も、寮生には特に目を配らせ、健康や生活面に異変がないかを常に注意しています。病気などになった場合は、管理人がクラス担任に連絡し、場合によってはクラス担任が様子を見に行き、専門医まで連れていくこともあります。

寮・下宿相談の詳細は、<http://www.kit-group.jp/apartment/>で紹介しています。

表7-4 家賃相場

部屋のタイプ	広さ	形態	価格
アパート・マンション	6～13 帖	バス・トイレ・台所・冷暖房付き	20,000 円～73,000 円
アパート（夕食付）	6～10 帖	バス・トイレ・台所・冷暖房付き	29,000 円～66,000 円 （食費：16,000 円～21,000 円）
共同寮（夕食付）	4.5 帖～9 帖	バス・トイレ・台所共同	16,000 円～21,000 円 （食費：12,000 円～17,000 円）
共同寮（朝・夕食付）			16,000 円～21,000 円 （食費：24,000 円～25,000 円）

## 8. 課外活動と課外学習

本校では、正課の授業に加えて、学生の課外の活動を強く奨励しています。

### 8.1 学生会

学生会は、本校の学生全員が所属している学生団体で、学級委員会など6つの専門委員会と運動部、文化部あわせて19のクラブが活動しています。

#### (1) 学生会専門委員会

- ① 学級委員会 : 学生会の運営に協力します
- ② 文化委員会 : 文化的行事の運営に協力します
- ③ 体育委員会 : 体育的行事の運営に協力します
- ④ 公安委員会 : 校紀校風の刷新向上にあたります
- ⑤ 特教委員会 : 学校行事の運営に協力します
- ⑥ 部活動委員会 : 各部の健全な活動向上を推進します

#### (2) 部活動

##### 《金沢キャンパス》

- ① 運動部  
陸上競技部／バスケットボール部／テニス部／野球部／サッカー部／卓球部／バドミントン部／水泳部／剣道部／ハンドボール部
- ② 文化部  
吹奏楽部／放送・無線部／電子計算機部／写真部／美術部／ハンズオン部

##### 《白山麓キャンパス》

ネイチャー&アドベンチャー／ランゲージ&カルチャー／デザイン&ファブリケーション

### 8.2 学科・研究室・教育支援センターによる課外の学習プログラム

学科、研究室で実施している授業外の学習プログラムで、現在4つのプログラムに学生が積極的に参加しています。

- ① 全国高等専門学校ロボットコンテスト
- ② 全国高等専門学校プログラミングコンテスト
- ③ 全国高等専門学校デザインコンペティション
- ④ 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

### 8.3 夢考房プロジェクト

夢考房プロジェクトは、グループ活動を前提として、学生メンバーが立案・調査・設計・製作・分析・評価という一連のモノづくりのプロセスを体験すると共に、スケジュール管理、予算管理などを自主的に行なう学生プロジェクトです。

- |          |             |                |
|----------|-------------|----------------|
| ① 高専ロボコン | ⑥ ロボカップ     | ⑪ 小型無人飛行機      |
| ② ソーラーカー | ⑦ 義手研究開発    | ⑫ 組込みソフトウェア    |
| ③ エコラン   | ⑧ 建築デザイン    | ⑬ 人工衛星開発       |
| ④ 人力飛行機  | ⑨ メカニカルサポート | ⑭ RoboCup@Home |
| ⑤ ロボット   | ⑩ フォーミュラカー  |                |

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/project/index.html> で紹介しています。

## 8.4 地域連携への取り組み

地域社会との関わりは、学生の人間性、社会性を磨きます。本校では、小中学校に教員・学生を派遣し、科学実験や理数系の授業を行なうプロジェクトや、地域の清掃活動への参加など、地域社会への貢献を教育の一環としてとらえ、積極的に取り組んでいます。

### (1) ボランティア活動

地域の清掃や献血、福祉施設への慰問など学生が積極的にボランティア活動に参加しています。

### (2) 出張授業

実験や英語の授業など本校のユニークな授業を中学校で行なっています。また、工学・英語協同学習の一貫として本校学生が教師役となって授業を行なうプログラムもあります。

### (3) 大学コンソーシアム石川

本校では、石川県と県内の大学や短大、高専などの高等教育機関が参加する一般社団法人「大学コンソーシアム石川」に加盟しており、大学間の連携を深め、地域社会や産業との結び付きを強化しています。同法人の加盟している教育機関は以下の21校です。

金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢美術工芸大学、公立小松大学、金沢工業大学、金沢星稜大学、金沢医科大学、北陸大学、金沢学院大学、金城大学、北陸学院大学、放送大学石川学習センター、金沢学院短期大学、北陸学院大学短期大学部、金城学院大学短期大学部、金沢星稜大学女子短期大学部、小松短期大学、石川工業高等専門学校、国際高等専門学校

## 9. 外部評価の状況

---

本学では、外部評価による評価基準を積極的に導入し、社会が必要とする教育、研究、サービスの継続的な改善活動に努めるとともに、その卓越性を追求し、社会に貢献することを目指しています。

外部評価の詳細は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/> で紹介しています。

### ① 大学評価・学位授与機構〔文部科学大臣認証評価機関〕

大学評価・学位授与機構の高等専門学校機構別認証評価を受け、評価基準に適合していると認定されました。

認定期間：2013年4月1日～2020年3月31日

## 10. 財務情報

---

財務情報として、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、事業報告書及び監査報告書を、[https://www.kanazawa-it.ac.jp/about\\_kit/gakuenjokyo.html](https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html)で紹介しています。